

## 第 102 回日本泌尿器科学会総会を終えて

初夏の日差しが眩しい神戸市のポートピアアイランドに、約 200 名の看護師を含めた 7000 名あまりの内外の泌尿器科領域の研究者・医師の参加を得て第 102 回総会を開催させて頂きました。無事に終了できましたこと教室員一同お礼申し上げます。今回の総会は、2010 年の JUA 教育ワークショップでの総会のあり方に関する提言に沿った形での開催を心がけてみました。JUA 総会の国際化へ向けた **International Session** の充実化、名誉会員の英知を最大限に活用させていただくこと、会場選定におきましては豊富な宿泊施設や交通手段の利便性に加え、すべての会場へのアクセスが短時間で可能なことなどであります。愛する香川の地を離れての開催は残念でしたが、参加者の皆様に讃岐の匂いを感じていただこうと「讃岐ミュージアム」を設営してみました。さぬきうどんを含め香川の雰囲気は多少は感じていただけたのではないかと考えております。大会のサブテーマに掲げました「良医は国を癒す」に関しては、会長は何を言いたいのだといぶかしく感じられた方が多かったかもしれません。それでも各会場では、内外の厳しい医療環境の中で泌尿器科医療は今後どこへ進むべきか、を真剣に議論していただけた様に感じております。一方で、興味ある演題や企画がしばしば同時間に進行し、私自身拝聴出来なかったものが多々あり大変残念でした。最終的なプログラミングの責任者として大いに反省しております。また、予想外に多くの国外の泌尿器科医が JUA 総会への参加に意欲を持って頂いていることを痛感しましたが、**International Session** において、JUA 会員との意見交換が十分に出来なかったことも次回総会への課題になったように感じております。このように今回の総会では幾つかの課題や反省点がありましたが、これらは第 103 回総会会長の並木先生と金沢大学泌尿器科学教室の先生方によって見事に改善が図られることと思っております。会員の皆様のご支援、あらためまして本当にありがとうございました。

第 102 回日本泌尿器科学会総会 会長  
香川大学医学部泌尿器科  
寛 善行

